

市職員のポーンナスに成果主義を導入することについて

藤倉 宗義議員

・質問 財政難の中、市役所が少人数でこれまで以上の仕事をこなすには、全職員が自分の能力を最大限発揮し、知識を高め、人一倍仕事をしていかなければならない。私がかねてより硬直的な公務員の給与体系の見直しを求めている。まず手始めにポーンナスに成果主義を取り入れるべきと考えるがいかがか。

・答弁(助役)

市では昨年の人事院勧告を踏まえ、いわゆる給与構造改革に取り組むべく準備をすすめている。実施内容については、俸給表の見直しとして、年功的な給与上昇の抑制、職

務・職責に応じた給与とするための俸給表の級・号俸構成の是正を図るとともに、勤務成績に基づく昇給制度を導入しようとするものである。

埼玉県においては、一律の支給であった勤勉手当を、今年度から課長級以上の管理職員に限り、勤務実績を反映させた制度を導入したところである。評価はA、B、C、D、Eの五段階で設定している。A評価は六万円から十万円程度の増加となり、C評価については一万五千円から二

万円程度の減額になったとのことである。

当市においても、勤勉手当に勤務実績を反映させた制度を導入するにあたって、現在の勤務評定制度を更に見直す必要がある。能力・実績に基づく人事管理の土台として、実効性のある人事評価を行うとともに、評定者、被評定者

双方が理解・納得の得られるよう、その内容について十分協議を行いたい。そして目標管理等を含めた人事評価制度の構築を来年度から実施し、

できるだけ早い時期に導入を進めていきたいと考えている。

今後、勤勉手当に勤務実績を反映させた制度の導入に当たっては、県の実施状況を参考とし、助言等を踏まえながら、県同様階級ごとに段階的に導入していきたい。

その他の質問

・職業紹介所の設置について
・小学校での英語教育の強化について
・新型交付税による当市歳入の影響について

「子ども一〇番の家」プロジェクト

齋藤 隆議員

・質問 子ども一〇番の家は当市では平成十三年にPTA連合会の取組みとして発足し、今日まで子どもを犯罪から守る手段として有効に機能し、その抑止に寄与してきた。五年が経過した今、子ども一〇番の家がさらに機能的で実践的なものとなることを

・答弁(教育次長)

願い、現在の状況及び今後の展開を伺う。
本年四月現在、看板の設置は千二百二十一件となっている。対応マニュアルについては、詳細な内容を網羅する新マニュアルを作成し、配布に向けての準備を進めている。

子どもたちへの指導、駆け込み訓練については、各小学校とも一斉下校の際に、子ども一〇番の家の場所の確認を行っている。

現在、企業についてはコンビニや金融機関など約五十箇所にご協力を頂いているところであるが、その拡充・拡大についても、さらに推進してまいりたい。

老朽化した看板の交換は、事業開始以来、毎年見直しを行っている。また表示板のデザインに市のイメージキャラ



子どもを見守る『110番』

クターを用い、子どもたちに親しみやすいものへの変更を検討しているところである。行政の支援体制については、羽生市防犯のまちづくり基本

方針に基づき、通学路における声かけ運動、防犯啓発チラシの配布、防犯パトロールなどの実施、防犯ブザーの配布、講習会開催等の各種事業を展開・拡充していきたいと考えている。

今後においても、警察・行政・市民の連携による地域防犯に向けた施策の中で、さらに充実した内容が実施できるよう、支援してまいりたい。

その他の質問

・今後の農業政策について